

アラブ世界で生まれた イスラーム教

ムハンマドが創始したイスラーム教が
アラビア半島に広まる

6世紀の西アジアでは、ビザンツ帝国とササン朝ペルシアの対立が激しくなり、(P22参照)ペルシアから地中海へ抜ける東西交易のルートが衰退していた。代わって利用されるようになったのが、アラビア海から紅海をへて、パレスチナ、地中海へと抜けるルートで、このルートがあるアラビア半島西岸にはアラブ人が住み、メッカやメディーナが新しい商業都市として急成長を遂げていた。

メッカの名門氏族の家に生まれたムハンマドは、610年ごろに自らを唯一神アッラーの啓示を受けた預言者であるとして、アッラーへの帰依を説いた。当初、その教えに従う者は少数に留まり、ムハンマドらは迫害を受けたため、622年にメディーナへ移住した。これをヒジュラ(聖遷)という。イスラーム暦ではこのヒジュラがあった622年を紀元元年とする。

ムハンマドはメディーナの住民をイスラーム教に改宗させ、ウンマとよばれる宗教共同体をつくり上げた。そして630年にメッカを征服、翌年にはアラビア半島のほぼ全域を影響下に置いた。

その後、イスラーム教徒による帝国は北アフリカやペルシアなどを征服し、急速に版図を拡大する。

『コーラン』とスンナに基づくイスラーム法

イスラーム教は、唯一神アッラーへの絶対的な服従を義務づけ、すべてのムスリム(イスラーム教徒)は、アッラーの前では平等であるとする。また、キリスト教などとは違い、神と信徒を仲介する聖職者は存在しない。

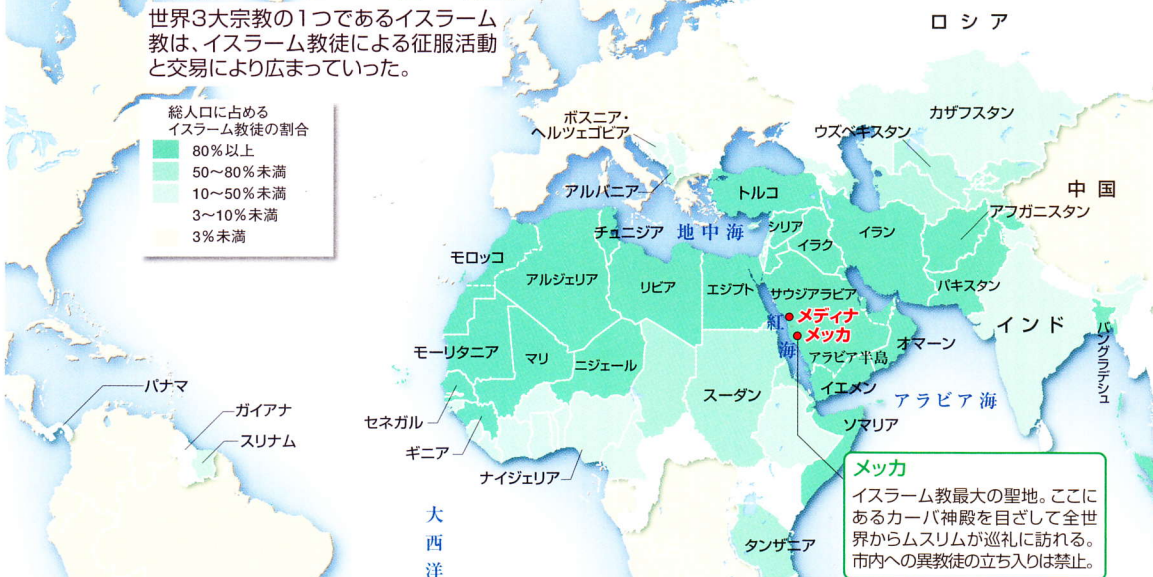
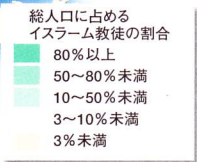
アッラーの言葉をまとめたとされるのが『コーラン』で、イスラーム法は、この『コーラン』とムハンマドの言行(スンナ)などに基づいている。イスラーム法はムハンマドの死後体系化され、7〜8世紀に確立した。

イスラーム法は、ムスリムにとつての義務である六信五行のほか、社会や国家のあり方も規定しており、現在でも、ムスリムの生活規範や多くのイスラーム国家の法律は、イスラーム法に則っている。

イスラーム教の分布・義務・宗派

現在のイスラーム教の分布

世界3大宗教の1つであるイスラーム教は、イスラーム教徒による征服活動と交易により広まっていった。



商業がさかんになったアラビア半島で、預言者ムハンマドがイスラーム教を唱える。

メッカ
イスラーム教最大の聖地。ここにあるカーバ神殿を目的地として全世界からムスリムが巡礼に訪れる。市内への異教徒の立ち入りは禁止。

らくしんごぎょう
六信五行 イスラーム教徒に義務として課せられている、6つの信仰と5つの行い。

六信	五行
神(アッラー)	アラビア語で「アッラーのほかに神はなく、ムハンマドはアッラーの使徒なり」と唱える。
天使	信仰告白
啓典(『コーラン』)	礼拝
預言者(ムハンマド)	1日5回、メッカの方向へ祈る。
来世	断食
天命	断食月は日の出から日没まで飲食をしない。
	喜捨
	財産に応じて貧しい者に施す。
	巡礼
	一生に1回は聖地メッカへ巡礼に行く。

イスラーム教のおもな宗派

現在のイスラーム教は、多数派のスニ派と少数派のシーア派などに大別される。

